

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 5 3	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Using alcohol screening results and treatment history to assess the severity of at-risk drinking in Veterans Affairs primary care patients. アルコールスクリーニングテストの結果と治療歴を用いた、退役軍人プライマリーケア患者における危険飲酒の重症度の評価	
執筆者 Bradley KA, Kivlahan DR, Zhou XH, Sporleder JL, Epler AJ, McCormick KA, Merrill JO, McDonell MB, Fihn SD.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Alcohol Clin Exp Res. 2004 Mar;28(3):448-55.	
キーワード 初期治療 (プライマリーケア)、飲酒、アルコールスクリーニングテスト	
要 旨 <p>背景： かかりつけ医には危険な飲酒をしている可能性のある患者を管理する実用的な方法が必要である。本研究ではアルコールスクリーニングテストの点数とアルコール依存症に対する過去の治療歴についての患者の報告が、飲酒が原因となって発生している障害の重症度を反映するかどうかについて評価を行った。</p> <p>方法： 退役軍人で一般内科を受診した外来患者のうち、危険な飲酒をしている人にアルコール使用障害識別テスト (Alcohol Use Disorders Identification Test : AUDIT、質問 1～10 よりなる) やアルコール依存症の過去の治療歴、禁酒会への参加歴に関する質問を含む質問票を郵送した。AUDIT の質問のうち 4 から 10 は、飲酒が原因で発生したここ 1 年間の問題 (PYPD) を評価するために用いた。危険な飲酒をしているものにおける PYPD の有病率や Past-Year AUDIT Symptom Scores の平均点数 (0-28 点) を CAGE (アルコール依存症問診票 : Cutting down, Annoyance by criticism, Guilty feeling, and Eye-openers) や AUDIT-C (Audit のうちアルコール消費に関連する質問 1～3 の部分) の点数の変化や治療歴の変化と比較した。</p> <p>結果： 質問に回答した 7861 人の危険飲酒をしている男性のうち、33.9% に PYPD が認められた。Past-Year AUDIT Symptom score との関連は CAGE の点数よりも AUDIT-C の点数との間でより強い関連が認められた ($p < 0.0005$)。PYPD の有病率は CAGE の点数が上がるにつれて 33% から 46% へ増加しており、また AUDIT-C の点数が上がるにつれて 29% から 77% に増加していた。点数ごとのサブグループに分けてみると、治療歴のある患者では治療歴のないものに比べて PYPD がより認められ、また Past-Year AUDIT Symptom Scores の平均点数が高い傾向が認められた。</p> <p>結論： 過去のアルコールに関する治療歴の質問と組み合わされた AUDIT-C の点数は退役軍人の男性患者における PYPD の重症度を推定するのに役立つことが明らかになった。</p>	